

環境活動レポート

2014年版(2013.6.1～2014.5.31)

作成日2014. 8. 1

浜田化学株式会社

〒660-0843

兵庫県尼崎市東海岸町1-4

TEL-06(6411)3457

FAX-06(6411)8200

人と環境にやさしい安心で安全な天ぷら油の
リサイクルを行っています。

人と環境にやさしい企業をめざして!!!



●● Hamada Kagaku ●●

目次

環境憲章・環境方針3
事業活動の概要4
施設の概要5
中間処理施設6
事業所所在地7
組織体制8
環境目標とその実績と評価9~14
代表者による環境活動の取組み結果の評価15
問題点の是正措置及び予防措置の結果16

浜田化学株式会社環境憲章

志

Cocolozashi

私たちは環境ビジネスを通じ地球環境の改善と人類の発展に貢献します。

常にお客さまに満足と納得のいただける安心安全なリサイクルを笑顔で提供します。

さまざまな変化の中で最適な環境システムを構築するための不断の努力を行います。

環境方針

すべての企業活動・製品およびサービスにおいて、環境を常に意識し、“ヒトと地球に優しい製品・サービス”を提供するとともに、安心な社会・自然環境を破壊する及社会的行為を排除する。

1. 廃食用油のリサイクルシステムを広く普及させ、水資源の保全と資源の有効活用に貢献する。
2. 省エネルギー、省資源、有害物質の廃除を推進し、環境負荷の極小化に配慮する。
3. 恒に環境推進体制・組織を最適化し、環境活動を推進する。
4. 社員の環境意識を高めるよう、環境教育・啓発活動を積極的に展開し、周知徹底させる。また外部に対しても、環境負荷と環境対応状況を積極的に公開する。
5. EMS(環境マネジメントシステム)を構築し、環境目的・目標を定めて定期的に見直し、環境汚染・災害の防止と、環境負荷の継続的な改善を行い、関連する法規制等を遵守する。
6. 環境技術とエコ商品等の研究・開発を推進し、その成果を広く社会へ還元する。
7. 行政機関、地域や関係団体等との連携を密にし、社会全体の環境保全活動に積極的に参画・支援・協力する。
8. 物品の調達、資材の仕入れ時は環境に配慮されたものを優先的に選択する。

2010年6月1日

浜田化学株式会社

代表取締役 岡野嘉市

事業活動の概要

社名 : 浜田化学株式会社
 代表者 : 代表取締役 岡野嘉市
 設立 : 1970年 6月 22日
 資本金 : 5,000万円
 事業内容 : 廃食油・食品リサイクル事業
 各種油脂・環境商品の販売
 環境ソリューション事業
 店舗衛生メンテナンスサービス

対象サイト: 全社・全事業

環境管理責任者: 総務部長 岡野輝平

TEL 06 (6411) 3457 FAX 06 (6411) 8200 携帯 080 (3786) 9654

e-mail: kohei@hamadakagaku.co.jp

事業活動の規模:

活動規模	単位	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年度
廃食油処理量	t	13,333	12,679	12,366	12,937	13,424
売上高	百万円	1,331	1,240	1,280	1,304	1,266
従業員	人	97	86	77	84	87
床面積	m ²	4,530	3,896	3,896	3,896	3,896

(年度は6月1日より5月末日)

保有運搬車両:(平成26年8月現在) 56台

内訳 10t 箱型	3台(内冷凍車2台)
10t ローリー	1台
4t ダンプ	1台
3.5t タンク車	1台
2t~4t 平ボディー	3台
2t~4t 箱形	40台(内冷凍車2台)
社用車(乗用車)	7台

施設の概要:

○積替え保管施設

本社工場(屋内保管)

所在地	兵庫県尼崎市東海岸町1番地の4	
面積	177.62 m ²	
種類	保管上限	保管方法
廃プラスチック類	1.3 m ³	容器を用いた保管
紙くず	0.8 m ³	容器を用いた保管
木くず	0.8 m ³	容器を用いた保管
繊維くず	0.8 m ³	容器を用いた保管
金属くず	21.5 m ³	容器を用いた保管
ガラスくず	0.8 m ³	容器を用いた保管
がれき類	0.8 m ³	容器を用いた保管

フォークリフト8台

名古屋営業所(屋内保管)

所在地	小牧市藤島町中島18番地	
面積	434 m ²	
種類	保管上限	保管方法
廃油 廃プラスチック、紙くず 木くず、繊維くず 動植物性残さ、金属くず ガラスくず、コンクリートくず 陶磁器くず	374.448 m ³	容器を用いた保管

フォークリフト1台

静岡営業所(屋内保管)

所在地	静岡市駿河区中島2835番1	
面積	34 m ²	
種類	保管上限	保管方法
廃油	12.3 t	容器を用いた保管
金属くず	0.1 t	

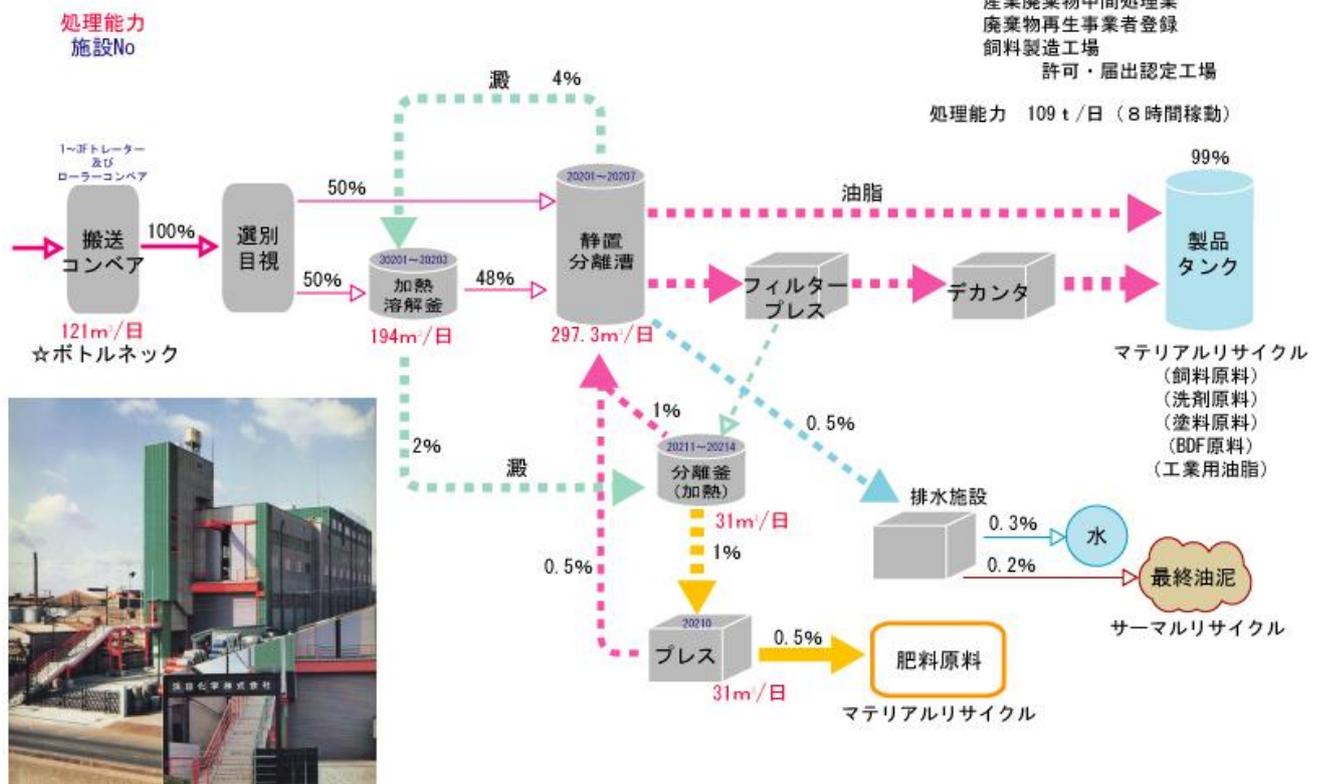
フォークリフト1台

○中間処理施設

本社工場

加熱遠心 分離施設	設置場所：兵庫県尼崎市東海岸町1番88 設置年月日：昭和58年10月1日 処理能力：汚泥 34 t / 日 動物又は植物に係る固形状の不要物 25 t / 日
加熱溶解 施設	設置場所：兵庫県尼崎市東海岸町1番88 設置年月日：昭和58年10月1日 処理能力：汚泥 71 t / 日
加熱静置 分離施設	設置場所：兵庫県尼崎市東海岸町1番88 設置年月日：昭和58年10月1日 処理能力：廃油 109 t / 日

中間処理フロー（廃油）



全事業所の所在地:

◇本社(阪神営業所・株式会社東和含む)および工場(尼崎リサイクルセンター)

〒660-0843

兵庫県尼崎市東海岸町1番地の4

TEL 06 (6411) 3457 FAX 06 (6411) 8200

◇京都営業所

〒601-8127

京都府京都市南区上鳥羽北花名町38番地1

TEL 075 (681) 5674 FAX 075 (681) 6169

◇名古屋営業所(積替え保管施設)

〒485-0062

愛知県小牧市藤島町中島18番地

TEL 0568 (72) 9591 FAX 0568 (72) 9679

◇富山営業所

〒931-8414

富山県富山市浜黒崎3385-5

TEL 076 (451) 8679 FAX 076 (451) 8678

◇静岡営業所

〒422-8046

静岡県静岡市駿河区中島2835-1

TEL 054 (284) 8668 FAX 054 (284) 8667

◇東京支店

〒171-0043

東京都豊島区要町1-10-8 Domus.K103

TEL 03 (5926) 8931 FAX 03 (5926) 8932

平成22年6月より稼動

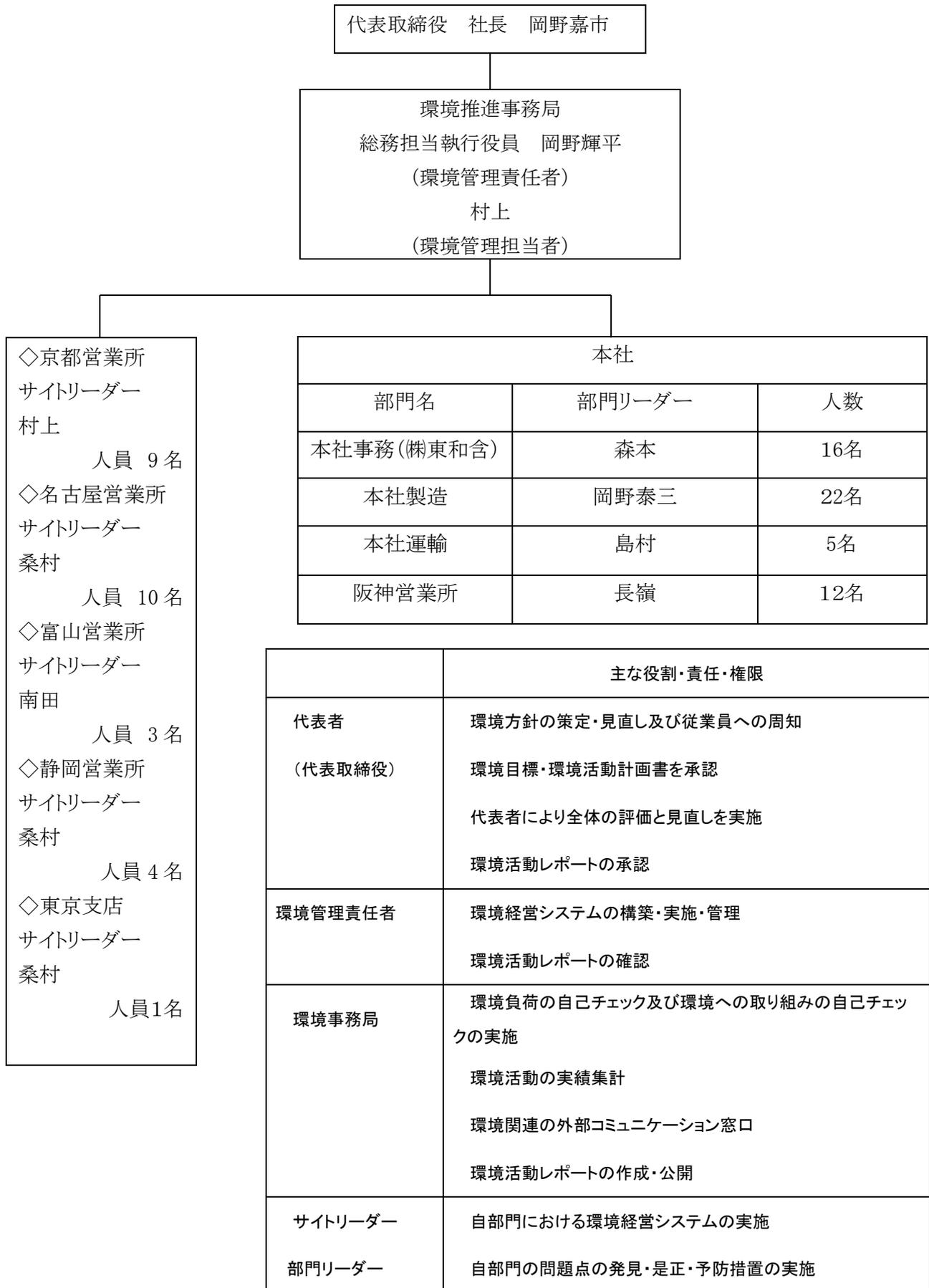
廃棄物処理料金:

提示方法 : 廃食用油の品質・排出量に伴い別途相談

平均 収集運搬 : 30円/kg

処分費用 : 無料

EA21取組み組織体制:



環境目標及びその実績と評価

環境への負荷の基準年からの推移

		年度は同年6月1日より翌年5月31日まで					
環境への負荷		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	3,028,296	2,387,988	2,470,026	2,512,858	
	()	kg-CO ₂					
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	12,679	12,365	12,938	13,424	
	中間処理用	t	12,679	12,365	12,938	13,424	
	うち再資源化等量	t	12,679	12,365	12,938	12,401	
	最終処分量	t	0	0	0	0	
	中間処理後の産廃の処分量	t	12,679	12,365	12,938	1,023	
	うち再資源化等量	t	12,679	12,365	12,938	1,023	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(単純焼却)	t	142.6	107.6	93.1	80
		(リサイクル)	t	22.1	53.6	49.1	63
		最終処分量	t	0	0	0	
	産業廃棄物	(単純焼却)	t				
		(リサイクル)	t	818.12	885.1	798.76	1,022.6
		最終処分量	t				
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	15,348	16,721	11,841	11,668	
	下水道	m ³	2,820	2,666	1,615	1,591	
④-2 水使用量	上水	m ³	18,546	14,008	13,456	13,259	
	工業用水	m ³					
	地下水	m ³					
⑤ 化学物質使用量	苛性ソーダ	kg	45,530	35,360	25,120	24,000	
		kg					
		kg					
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	3,713,155	3,596,129	3,669,510	3,622,709	
	化石燃料	MJ	52,269,408	39,144,605	41,624,243	42,347,145	
	新エネルギー	MJ	34,654	1,929	0	0	
	その他	MJ					
⑦ 物質使用量	資源使用量	t					
	循環資源使用量	t	18,970	18,834	18,309	17,206	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質	t	1.18	1.18	1.007	0.28	
	水の利用量	m ³					

① 廃食用油リサイクルシステムの普及を促進する。

数値目標：前年比 105%の自社回収リサイクル量

2013年6月～2014年5月までの実績 13,424t

前年の実績 12,938t

前年比 103.8%

評価：○ 顧客の増加により回収量も増加。

今後も営業体制の整備、収集運搬効率化を進める。

② 全社の二酸化炭素排出量の1%削減。

二酸化炭素排出量合計(kg-CO ₂)		
2014年度	2,512,858	理由: 営業人員の増加による燃料費の増加、廃食油処理の増加によるボイラー使用量増加によるもの。
2013年度	2,470,026	
昨年対比	+1.7%	

2014年度 電力の排出係数0.378 (kg-CO₂/kWh)

2013年度 電力の排出係数0.378 (kg-CO₂/kWh)

a. 使用電力量の削減

- ・事務所内の温度設定
- ・冷房 28°C 暖房 20°C
- ・不要場所、不要時の消灯
- ・PCの on/off
- ・上記についての貼紙啓発 数値目標-1%

使用電力量(kWh)

2014年度	368,536
2013年度	373,297

昨年対比 -1.3%

理由: 2012年度で処理しきれなかった天かすの処理が2013年度に終了し、今年度は第2工場での使用電力が7.8%削減できたため、会社全体では1.3%削減できた。しかし京都、静岡営業所では前年より増加しており、負荷の高いエアコン、電灯等の使用方法の見直しが必要。

b. 工場におけるボイラー燃料の削減

- ・配管の見直し
 - ・稼動状況の見直し
 - ・代替エネルギーの開発
- 数値目標-1%

ボイラ燃料によるCO₂排出量

2014年度	1,403,817	理由: 廃食油の処理量の増加により燃料使用量増加。また、処理物の品質の低下により、クッカー温度が以前より低下するため蒸気量が増加。設備の見直しを実施。
2013年度	1,386,529	
昨年対比	+1.2%	

c.自動車燃料の削減		
	・公共交通機関の利用促進	
	・アイドリングストップ	
	・使用量・燃費の見える化	
	・物流・営業の効率化	
	・バイオ燃料の使用	数値目標-1%
運搬車両燃料合計(L)		
2014年度	347,516	
2013年度	340,177	理由：回収地域広がり(香川県の
営業車両燃料合計(L)	昨年対比 +2.2%	顧客増加等)と営業員の増加(営
2014年度	24,868	業・回収2名増員)により燃料使用
2013年度	21,386	量は急増。回収ルートの見直しと営
	昨年対比 +16.3%	業方法の見直し必要。

③ 省資源、廃棄物の削減

運搬容器、梱包材のリサイクルを行う。(全社)

数値目標：・入荷物の梱包ダンボールのリサイクル率 100%

・金属缶容器のリサイクル率 100%

2013年6月～2014年5月までの実績

金属缶：100%・754.46tをリサイクル原料として出荷。

ダンボール：100%・62.08tをリサイクル原料として出荷。

評価：◎今後も活動を継続。

④ 単純焼却対象の一般廃棄物を1%削減。

一般廃棄物合計(t)		
2014年度	80.3	理由：ゴミを社内に持ち込まないように
2013年度	93.0	徹底していったため。
	昨年対比 -15.8%	

⑤ 水使用料を1%削減。(全社)

使用水量(t)		
2014年度	13258.5	理由：ほぼ全営業所で使用量が削減でき
2013年度	13455.5	た。無駄に水を使用しない意識づけが徹
	昨年対比 -1.5%	底できた。

⑥ バイオディーゼル燃料・リサイクル燃料に関する環境技術の開発を行う。

→実績： 洲本市と共同で開発してきた酵素法によるBDF燃料製造設備が2013年10月に完成。回収車両、工場内のフォークリフトでB5燃料(軽油に5%BDF添加した燃料)を使用し、燃費や性能試験を行う。また、全営業所でB5燃料を使用していくための給油設備を検討。



⑦ アルカリ電解水の販売。

→実績：大手スーパーの(株)ライフコーポレーションに販売開始。

合成洗剤からアルカリ電解水による清掃への切り替えにより、排水に対する環境負荷の低減につながる。また、洗剤とは違い、2度拭きをしなくても良いため、人的コスト低減につながる。

浜田化学本社事務所においても清掃時はアルカリ電解水へきりかえていく。

今後社内で製造しコストを下げるとともに、回収員が全員付帯する予定。回収先の廃油の置き場所の清掃等、サービスの向上につなげていく。



⑧ 各種展示会、地域イベントへ参加。

→実績：兵庫環境ビジネス展、尼崎産業フェア等の各種展示会やエコキッズ、川西エコの集いなどの地域イベントへ積極的に参加。

2013年12月22日にエコでつながる西淀川推進協議会主催の廃油キャンドルナイトに初参加。



浜田化学で約700個の廃油キャンドルをならべ、地域の方々へ廃食油リサイクルのPRを行う。

⑨ 排水処理施設処理脱水機の導入

→実績：脱水機の導入により排水基準をより厳格化し、これまで以上に河川への環境負荷低減を目指す。

⑩ インターンシップの受け入れ

→実績：関西国際大学の大学生10名が4日間にわたり廃油処理と廃油回収を体験。課題解決型のインターンシップで現状の問題点の解決策を考えてくれました。



中期の環境負荷削減目標とその結果

平成 26 年 8 月 1 日
浜田化学(株) 代表取締役
岡野嘉市

2011 年度を100%とし、下記のとおり中期計画を設定。

項目	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
二酸化炭素排出量	100%	99% 78.8%	98% 81.8%	97% 83.0%	96%
排水量	100%	99% 75.6%	98% 72.5%	97% 76.0%	96%
廃棄物量 (単純焼却)	100%	99% 74.6%	98% 65.2%	97% 56.2%	96%
廃食用油のリサイクル量	100%	105% 97.5%	110% 102%	115% 105.9%	120%
グリーン購入	50%	50% 50%	55% 50%	60% 50%	65%

赤字は結果を表す

各サイトにおいても同様に 2011 年度を基準とし上記の全体の削減目標と同様の削減率を数値目標とする。

※2016年度以降の中・長期目標は現在設定中です。

代表者による環境活動の取組み結果の評価

(1) 当社の環境への負荷の低減・管理への評価

我が社の主力である廃食油リサイクル業において、回収・処理数量が増加しており、車両燃料費、ボイラー燃料費ともに増加しています。

また、一旦大幅に下がりましたCO₂排出量も増加傾向にあり、あらためて回収ルート効率化、設備の更新が必要になってきております。

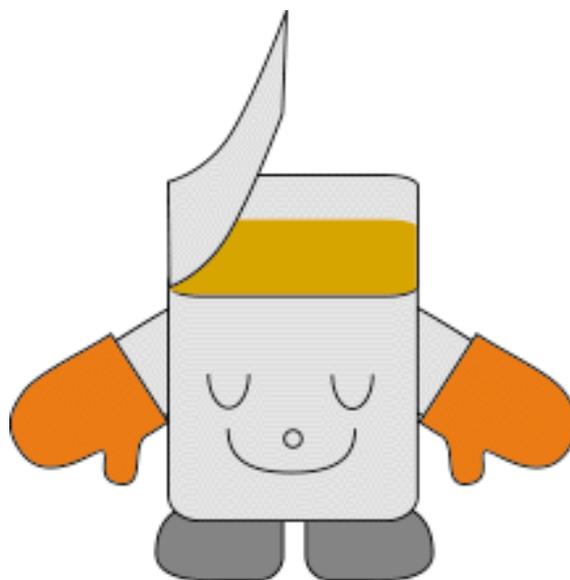
そのような中で、車両に関してはこれまで2tベースであった車両を今後の新車では3.0～3.5tベースへ変更していきます。それにより、各拠点から遠方のコースは1泊便にして回収し、車両燃料使用量の削減と回収員の移動時間による負担軽減をはかります。

工場設備に関しては、エキスペラを導入し、これまで土壌改良剤用としてしかリサイクルできなかった天かすをより価値が高い飼料原料へとリサイクルしていきます。これまでお客様が生ごみで捨てられていた天かすを、当社でリサイクルしゴミの削減につなげていきます。

(2) 環境マネジメントシステム導入の評価

環境負荷に対する数値化により、会社の無駄な部分や無理が発生している部分が見えてきておりますが、各部署の責任者も含め、環境負荷低減に対する意識は二の次になる傾向にあります。再度環境マネジメントシステムを導入する事へのメリットを全員で共有できる様、努めていきます。

以上



問題点の是正措置及び予防措置の結果

平成26年8月1日 代表取締役 岡野嘉市

項目	是正措置・予防措置	結果
水使用量	クッカーの使用・蒸気の使用・車両・工場内洗浄方法・頻度の検討を行い、業務改善を推進する。	対応を今後も継続。
廃棄物	記録の分析を進め、削減のための検討と分別の業務改善、エネルギー化への技術開発をさらに進めていく。	廃棄物の削減。
火災防止	消火器の配置、消防訓練	安全性の確保。
油脂漏えい	タンクの保全・十分な水処理容量の準備	無事故操業。
その他	特になし	

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 適用される主な環境関連法規

- ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・ 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- ・ 消防法
- ・ 大気汚染防止法
- ・ 水質汚濁防止法
- ・ 労働安全衛生法
- ・ 浄化槽法
- ・ 労働安全衛生法
- ・ 道路運送車輛法

(2) 違反・訴訟等

2013年度6月～2014年5月において、環境関連の違反・訴訟等はありませんでした。
また、過去3年間に於いても違反・訴訟等は一度もございません。
本社及び各サイト周辺の住民・企業からの要望はありませんでした。

以上